則として和名で扱っているが，データベースを作ってゆくとき，この同名異種が大変厄介な問題を起こす．とくに今後多くのデータベースが交流する時代になると，その結果としていつの間にか異なった植物の情報が混ざってしまうおそれがある．カワリミタンポポモドキのところで，神奈川県植物誌でその名が新たにつけられたいきさつが述べられているが，図鑑や植物誌を作る際にはこういう心配のある名前は別名として引用せず，解説文中でその理由を説明して，使わないように勧告したらどうだろうか．カラスノエンドウ，ヒモカズラ，バラモンジンなど，始末がわるくなっている例は少なくない．（金井弘夫）

□豊田武司（編著）：**小笠原植物図譜（増補改訂版）** 522 pp. 2003. ¥9,524. アボック社.

1981年に初版が刊行されて以来，編著者がたえず現地調査を継続して情報を補充し，新たな研究成果を取り込んできた．その間に小笠原の自然についての認識も一層高まり，本書の再版の要望も大きくなった．これを踏まえて図版の追加，訂正，補記などを行った結果，128頁が増えた．植物は固有種124種にそれぞれ一頁を当て，鮮明な写真一枚と説明文より成る．広分布種や帰化種は一頁3種が納められている．340頁以降には小笠原の自然，小笠原の魅力，固有種の保護，資料1小笠原の植物季節，資料2小笠原の植物相と分布，用語解説，参考文献と続く．固有種の多い小笠原植物の研究や理解に有用な文献である．本書のハードカバー版は細身縦長のB5版で厚さ3 cmであり，厚手の上質紙が使われているため，頁を開くのに抵抗があり，使っていると綴じが傷むのではないかと心配である．（金井弘夫）

□日本蘚苔類学会：**コケ類研究の手引き** 124 pp. 2003. 同学会.

学会創立30周年記念の出版物である．1.コケ類の採集，2.標本作製と管理，3.形態観察法，4.図版作製法，5.写真撮影法，6.染色体観察法，7.デンプンゲル電気泳動テクニック，8.分子系統解析法，9.化学分析法，10.コケ類の教材化，11.生態観察法，12.コケに関係した文献，の12章から成る．

コケの採集や標本作りは維管束植物とは少々異なるが，それに用いられる道具や使い方は大いに参考になる．まして3章以下の内容は，既刊の類書に同じ見出しがあるにしても，新しい機材や執筆者自身の工夫が各所に折り込まれていて，他分野の人達にも有用な情報を与えてくれるから，入手しても損はしないだろう．タングステン微細針の作り方などは知らなかった（かなり荒っぽいが）．

本書は非売品で，日本蘚苔類学会員および今後の新入会員には無料配付をするとのことである．だから年会費（3,000円）を払って入会すれば入手できるが，そうしないで入手したければ，下記に問い合わせること．需要が多ければ，非会員価格が設けられるだろう．717-0602 岡山県真庭郡川上村上福田，岡山理科大学自然植物園蒜山分室内，日本蘚苔類学会事務局（TEL/FAX 0867-66-7012）．（金井弘夫）